

5 外国語科で目指す授業づくりについて

(1) 授業改善のためのチェックリスト

次のチェックリストをもとに、自分の授業を振り返ってみましょう！

自分の課題点をどう改善するか常に考えながら、授業をつくっていきましょう！

		観点	◎○△	改善に向けて
基本	1	学習指導要領を理解している。 (特に言語活動の指導事項 20)		
	2	新しい学習評価について理解している。		
指導計画の工夫	3	学年目標を定めている。		
	4	4技能を総合的に育成できるような3学年間を見通した全体計画を立てている。		
	5	教科書分析を通して単元で付きたい力を明確にし、評価計画を立てている。		
	6	外国語活動の内容や指導法を踏まえ、小学校での体験が生きるような指導計画を立てている。		
単元構成	7	単元で付きたい力を明確にし、ゴールとなる言語活動を工夫している。		
	8	単元の目標を達成するために、つながりのある単元計画（評価計画）を工夫している。		
指導方法の工夫	9	本時の目標を具体的に示し、生徒が見通しをもって学習し、達成感を味わえるよう工夫をしている。		
	10	生徒が英語を使う（聞く・話す・読む・書く）活動を中心にすえている。		
	11	教師の英語使用量を増やしている。		
	12	言語材料についての知識や理解を深める言語活動と考えや気持ちなどを伝え合う言語活動をバランスよく位置づけている。		
	13	生徒が考えたくなる発問や言いたくなる、聞きたくなる活動を仕組んでいる。		
	14	既習の内容を繰り返して指導し、定着を図るよう工夫している。		
	15	生徒一人一人の定着状況を把握し、個に応じた支援や指導を工夫している。		
	16	評価規準をもとに終末の評価を行い、生徒が達成感を味わうことができるよう工夫している。		
	17	次時の内容や家庭学習について具体的に示している。		
学習習慣の確立	18	授業や家庭学習について、学習の仕方を具体的に示し、生徒自らが主体的に学習できるよう工夫している。		
	19	授業と関連付けた家庭学習を工夫するなど、家庭学習への動機づけを図るよう工夫している。		
	20	家庭学習の定着状況の把握や個に応じた評価や支援を工夫している。		



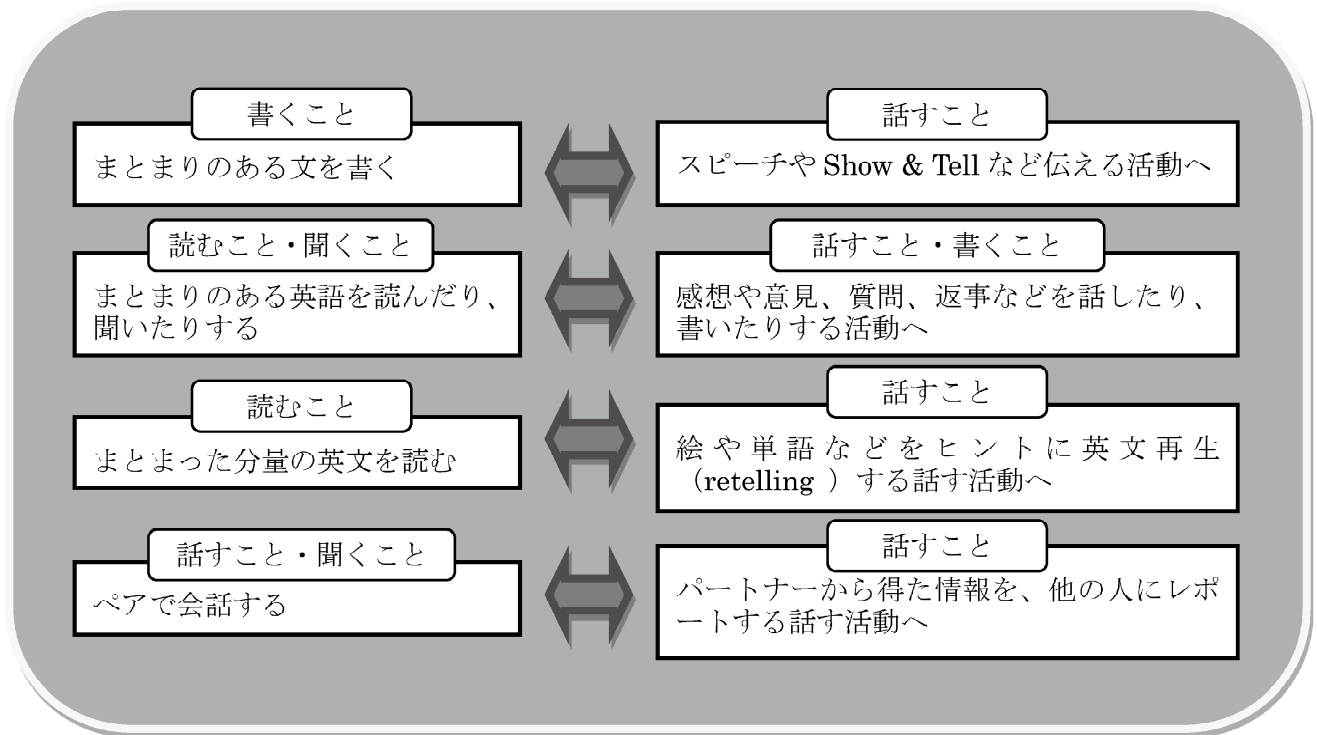
アクション・リサーチの手法で授業改善を継続していきましょう！

(2) 4技能の統合的な（関連付けた）活動例

新学習指導要領では、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する指導が求められています。複数の技能を関連付け、実際のコミュニケーションの場面を想定し、「活用」を意識した活動を設定していきましょう。

ここで挙げる活動は、一例です。日頃取り組んでいる活動を再度見直し、アレンジすることで、4技能を統合的に活用させる活動につなげていくことができます。

統合的な活動を仕組む際も、ゴールに向けて各活動がつながっている必要があります。各学年や3学年間の到達目標に向けて、いつまでに、どのような力を付けておかなければいけないか年間指導計画のなかで押さえておくことが大切です。また、1時間の授業においても同様に、付けた力を明確にしたうえで、活動を選び、手立てを考えていきましょう。到達目標に向けて、つながりのある活動でステップアップしながら力を付けていきたいですね。



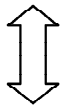
コミュニケーションは双方向、相手があって成り立つものです。発信する際には、一方的にならないように**相手意識**をもたせて指導していくことも意識していきたいですね。

相手意識をもつことが、伝えたいという意欲、相手に伝えるための表現の工夫や内容への深まりにもつながります。



1. 学習指導要領に示された統合的な活動

「読むこと」(オ)



「書くこと」(ウ)

「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」

「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。」



■教科書の本文の内容を理解させただけで終わっていませんか？

読んで得た情報をもとに、自分の考えなどと結び付けて発信させる工夫をしましょう。

目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を設定しましょう。

必要に応じて、I think や I agree、because などの表現を提示することも考えられます。

■定期テスト等においても、読んだことについての感想や理由を書く問題も取り入れ、指導したことが身に付いているか見とることも大切ですね。

「話すこと」(ウ)



「聞く」「読む」

「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。」



■スピーチ等を聞くだけで終わっていませんか？

スピーチや視聴覚教材などを聞いたり、手紙や読み物教材などを読んだり、ポスターや図表などを見たりしたことについて、問答したり、意見を述べ合ったりする活動を設定しましょう。

2. スピーチなどを活用した4技能の統合的な活動例

<活動例1> あるテーマに沿ったまとまりのある文章を書き、スピーチにつなげる。

- ①モデル文としてALTや先輩のスピーチ原稿を読み、書く意欲を高める。(Reading)
- ②マッピングなどを活用し、原稿を作成し、スピーチする。(Writing, Speaking)

<活動例2> スピーチに対して、質問したり、感想や意見等を述べたりする。

- ①スピーチを聞きながら、メモをとる。(Listening)
- ②質問、感想、意見等を述べ、対話する。(Speaking)

話し手が、スピーチの最後に聞き手に質問し、それに答えることからやり取りを始めることもできますね。

<活動例3> スピーチ内容をリテリングする。

- ①スピーチを聞きながら、キーワードをメモする。
(Listening)
- ②キーワードをもとにスピーチ内容を他の人に、
リテリングする。(Speaking)

グループに分かれて、スピーチ発表を行い、スピーチ内容について知らない仲間に対して報告を行うことを目的とすれば、メモを取って聞かせる必然性も生まれます。

<活動例4> スピーチ後、ALTからスピーチ内容に対するコメントをもらう。

- ①ALTに、スピーチ内容に対する感想や意見、
質問などを書いてもらう。
- ②質問に対する返答を書くなどして、ALTと
やり取りをする。(Reading, Writing)

フィードバックをもらえることは、うれしいことです。授業で、全員の生徒とALTが会話することは難しくても、紙面上なら全員との会話も可能です。ALTに様々な場面で活躍してもらいたいですね。

☆スピーチ原稿など、まとまりのある文章を書くための留意点

○まとまりのある文章を書くために

- ・生徒が書きたくなるような題材の工夫や場面を設定する。
- ・マッピング等を活用して、生徒のアイデアや創造性を引き出す。
- ・モデル文や構成、型などを提示し、書き始めやすいようにする。
- ・スモールステップを踏んで、まとまりのある文章を書けるようする。
- ・文と文の順序や相互の関係、文の構成などにも注意させる。
- ・授業ごとに、少しずつ文を書かせて、最終的にまとまりのある文章ができるようにするとよい。

書くことに慣れてきたら、自由度の高い文を書かせ、仲間のよい表現や構成などを紹介して、学び合えるようにしたいですね。

○より伝わる文章にするために相手意識をもつ

- ・書く前に、誰に対して、何を、どんな表現を使って書くかなど、目的意識をもたせる。
- ・自分の書いた文を推敲する時間をもつ。

聞き手に伝わる文章になっているか、どんな情報をさらに付け加えるとより分かりやすいか、文と文のつながりはあるかなどをチェックする。

わからない単語や表現は、リフレーズさせ、スペルミスにも気付けるようにする。

- ・友だちの書いた文を読み、アドバイスする。

『英語ライティングシート』の「Ⅲテーマ作文編」も活用してくださいね。

3. 教科書の本文を活用した4技能の統合的な活動例

＜活動例1＞ 「聞くこと」から、本文の内容を理解する。

- ①教科書を閉じたまま、本文のオーラルイントロダクションやCDを聞くことを通して（初聞）、内容を推測する。（教科書を開いて読んでみたいという生徒の興味を引き出すようにする。）（Listening）
- ②登場人物などについて簡単なQ&Aを行い、内容の大枠をつかむ。
- ③具体的な読み取りのポイントを与え、本文を読み、内容を確認する。（Reading）
- ④新出単語の練習やピクチャーカードを見ながら、内容理解とともに音読練習を行う。

＜活動例2＞ 本文の内容をリテリングすることにより定着を図る。

- ①本文のオーラルイントロダクションを聞く。1回目は大まかな内容を聞くことに集中し、2回目は、メモをとりながら聞く。（Listening）
- ②ペアで、メモを参考に、本文の内容を推測する。
- ③全体で内容を確認し、音読練習をした後に、本文をリテリングするためのキーワードをもとに、内容をリテリングする。（Speaking）
- ④本文の内容に対して、自分のことや感想、考えを加え、オリジナル性を出す。（Speaking）

音読練習では、ただリピートするだけでなく、内容理解を深めながら、本文の英文に繰り返すことが大切です。

教師がキーワードを選び、順序を示す。ピクチャーカードもヒントとして効果的に活用できます。前時の復習として、本文をリテリングさせることも有効ですね。

＜活動例3＞ 本文の手紙やメールに対して返事を書く。または、本文の内容に対して感想、賛否やその理由などを書く（話す）。

- ①内容理解だけを目的にせず、内容に対して、後で自分の意見などを表現することを意識して、内容をとらえながら読む。（Reading）
 - ②意見を述べる場合は、まず自分の意見を書き、その後に理由を加える。（Writing、Speaking）
- ※メール文や手紙文の型を示すことや、主張や論理的な意見を述べる場合は、述べ方の順序（結論→理由→具体例等）を示した型やモデル文を提示することが必要になる。

見通しを与えてから読ませたいですね。

英語が苦手な生徒には、本文中の英文を再構成したり、自分の英文を一文加えたりすることもできますね。

※本文中の表現や文など、使える表現は利用させる。

※1年生では、教科書の本文にプラス一文することや本文の続きを考えさせる。

2、3年生で感想や賛否、その理由などが書けるようになるためには、1年生の時からどのような活動を仕組み、いつまでに、どのような力を付けておくか、計画を立てておく必要があります。



4. インタビュー活動などを活用した4技能の統合的な活動例

インタビュー等で得た情報をもとに、単文で友達の情報を書いたり伝えたりするだけでなく、情報からわかったことをまとめたり、自分の感想や考えなどを加えたりして、まとまりのある文章を書いたり話したりする活動を仕組みましょう。

<活動例1> インタビューで得た情報をもとに、まとまりのある文章を書く（話す）。

①インタビューで得た情報をもとに、わかったことや自分の感想や考えなどを加え3～4文を書く。時間設定のなかで書く。(Writing)

②書いた文を発表する。または、次時に配付し、友達の文を読む。(Speaking, Listening, Reading)

※活動に慣れるまでは、書く題材を指定する。

※読むことにつなげる場合は、タスクを与えたり、制限時間を設けたりして、速読の練習に活用する。

このような活動は、様々な活動に加えることができます。どの情報を選ぶとより書きやすいかを伝えるなど、段階的に手立てを与えながら、活動に慣れさせたいですね。

友達が書いた文は、興味をもって聞いたり読んだりできます。既習表現がうまく使えている文や、構成が上手な文章などを積極的に紹介することで、意欲を高め、表現する力を徐々にレベルアップさせていきたいですね。

例) 2年生 Which do you like better, dogs or cats? などのインタビュー結果から

◇一人の友達について

Hiromi likes dogs better than cats. She likes dogs because they are very cute. She has a dog. When she has free time, she often plays with her dog.

下線部は、新たに加えた情報

◇クラスの全体について

10 students like dogs better than cats. 7 students like cats better than dogs. 5 students like both. Dogs are more popular than cats in our class. I like dogs better than cats. I think dogs are more friendly than cats. So I like dogs.

下線部は自分の考え

<活動例2> Daily Conversation や Chat で得たパートナーの情報について、他の人にレポートする。

①決められたトピックで話したり、質問や応答したりして会話する。メモをとりながら話す。

(Speaking, Listening)

②パートナーについて得た情報について、他の人にレポートする。(Speaking)

慣れるまでは、会話の継続や相づちをうつことなどを大切に、相手の情報として印象に残ったことだけをレポートする。慣れてきたらメモを取りながら会話するなど、段階的に活動を進めましょう。



上のような活動に継続して取り組むことで、どのように書いたり、話したりしたらいいのかをつかむことができ、書く力や話す力の向上につながっていきます。

(3) 文法指導と言語活動を一体化させた活動例

文法を、コミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法に力を入れるというよりも、実際に活用できる力を育てるといった視点を持ちましょう。

文法を言語活動と効果的に関連付け、自分の考えなどを伝え合う際に文法の知識を生かしたり、単語や連語などを具体的な状況で適切に使いさせたりする工夫をしましょう。

例：It's ~for ~to~ の導入

単元のゴール：平和宣言を書いて友だちに伝える。

① オーラルイントロダクション

T: I like cooking. This is a cooking book.

Oh, omelet!

It's easy for me to cook omelet.

〇〇さん、Do you like omelet? Oh, you like omelet, too.

Is it easy (or difficult) for you to cook omelet?

Oh, it is easy for you to cook omelet.

(他の例もいくつか出し、十分英文を聞いて慣れさせる)

生徒が聞いて理解しやすいような場面設定を工夫する。料理の本やピクチャーカードを見せたり、ジェスチャーや表情をつけたりしてわかりやすく導入する。

② ペアで会話練習

T: Can you ask your partner? Try!

ペアで聞き合い、相手の情報を得る。実際に使いながら構文に慣れる。

S1: Hello. Is it easy (or difficult) for you to cook ~?

S2: It is difficult for me to cook ~.

T: Is it easy for you to cook おでん? (何人か生徒に聞いて確認する)

文字を見て文構造を理解する。

③ 板書、文構造説明

板書し、簡潔明瞭に文構造の説明をする。その際、日本語の語順との違いに留意させる。スラッシュを入れる位置を考えさせ、何度か読んで慣れさせる。



Point!

PC

I like oden.

It's easy / for me / to cook oden.

It's difficult / for me / to cook oden.

■教師の文法説明が長く、生徒が実際に使う機会が少ないことはありませんか？

文構造を理解させるための説明に力を入れるのではなく、生徒が実際に使いながら慣れ、定着させるようにしましょう。

例 : It's ~for ~to~ のドリル①

① 教師から生徒に質問

T: Hello, ○○. You play tennis every day, right?

Is it easy for you to play tennis?

S: Yes.

生徒に身近な話題で練習させる。生徒が自分のこととして考え、表現できるような場となるように工夫する。



② 全員で文を考える

T: Let's make a sentence.

Class: It's easy for ○○ to play tennis.

T: OK. Next, talk in pairs.

教師の後についてリピートさせるだけにならないよう、生徒に考えさせる。また、一部の生徒の活動にならないように、全員に考えさせる。



③ ペアで会話練習

S1: Hello, S2. Is it easy for you to play baseball?

S2: Yes, it's easy for me to play baseball.

S1, is it difficult for you to swim?

S1: Yes, it's difficult for me to swim. Bye.

ペアで身近な話題について会話練習させる。その際、コミュニケーションの視点を大切にし、相手から情報を得るように意識させる。



④ ペアで会話したことをレポート

T: Could you report about your partner, S1 くん?

S1: OK. It's easy for S2 to play baseball.

T: Is it correct, S2?

S2: Yes.

前のペア練習で得た情報を全体にレポートさせる。ペア練習では、聞く必然性を、レポートでは、伝える必然性のある活動を仕組むことで、コミュニケーション力を養う。



■教師の言ったことをリピートしたり、機械的な練習ばかりで終わっていませんか？

生徒に考えさせる活動や、言ったり聞いたりする必然性のある活動を仕組みましょう。パターン練習においてもコミュニケーションの視点を大切にしましょう。



例：It's～ for ～to～ のドリル②（過去形）

① 過去形を導入する。（修学旅行のP C使用）

T: I have some pictures of our school trip.
It was fun for me to talk with a taxi driver in Nagasaki.
It was fun for me to have dinner in a hotel.
It was interesting for me to listen to Mr. A(語り部の方).
It is important for us to think about world peace.



② 教師と生徒で会話練習をさせる。

T: Where is this? ○○ was having dinner in a hotel.
○○くん, was it fun for you to have dinner?
S: Yes. It was fun for me to have dinner.
T: Good.



③ ペアBと会話練習させる。

S1: Hello. Was it fun for you to see グラバー園?
S2: Yes. It was fun for me to see グラバー園.
Was it interesting for you to listen to a guide in a bus?
S1: Yes. It was interesting for you to listen to a guide. Bye.



④ ペアBと会話したことをレポートさせる。

S1: It was fun for S2 to see グラバー園.
It was fun for me to see グラバー園, too.
It was interesting for me to listen to a guide in a bus.



⑤ ペアで会話したことを含み、修学旅行のことを書かせる。

例：Last May, I went to Kyushu as a school trip.
I went to グラバー園.
I could see a beautiful house and flowers.
It was fun for me to see グラバー園. . . .

修学旅行の写真など、生徒が言いたくなる場面の教材を使う。まずは、教師からの英語のインプットを十分に行い、過去形に聞き慣れるよう工夫する。

easy、interesting 以外の形容詞も紹介するなど、スモールステップを踏む。

理解しやすいように、写真を見せながら、実際に数名の生徒と会話の練習をする。

可能であれば、自分の意見や思いも含める。

「話すこと」から「書くこと」へ。時間設定をし、毎時間書いてまとめる。教師はノート添削し、個人の定着を見取る。



話したことを書いたり、聞いたことを話して伝えたり、4技能を効果的に関連付けて行いましょう。また、1時間（1単元）の構成においては、ゴールに向けて、活動と活動をつながりのあるものにしていきましょう。生徒とゴールを共有することも大切！

(4) 語彙指導

① 小学校外国語活動での文字の取扱い

小学校外国語活動における文字の取扱いは、次のように考えましょう。

- ① アルファベットの活字体の大文字・小文字に触れる段階にとどめる。
- ② 発音と綴りとの関係（語句の読み方）については、基本的に中学校段階で扱う。
- ③ 「聞く」、「話す」活動が中心。
- ④ 文字指導は、外国語の音声に慣れ親しませてから導入する。

② 中学校での指導すべき語数の増加の対応

中学校で指導する語数が 1200 語程度に増加することへの対応が必要になります。

- ① 学習指導要領が全面実施となる平成 24 年度に第 2・3 学年となる生徒については、移行期間から語彙の指導の工夫に努めることが必要です。
*教科書会社からの移行期間についての補助資料等を参考にして、未学習の単語がないようにすることが大切です。
- ② 語彙指導の際は「活用することを通して定着を図る」ことを意識して、ただ単に暗記させるのではなく、具体的な場面や状況の中で、適切に用いるように指導を工夫することが大切です。

③ 具体的語彙指導

■アルファベットの指導

○アルファベットへの興味づけ

「アルファベットは、どうしてアルファベットと呼ぶのだろう」

- ・昔のギリシャ文字の α （アルファ）と β （ベータ）からできている。

「アルファベットは、象形文字」

- ・Aは「牛の頭」、Cは「ブーメラン」、Dは「ドア」、Nは「へび」からできている。

「大文字と小文字はどちらが先にできただろう」

- ・大文字が先。紙が貴重だったために、少しでも多くのことを書くために、大文字を変化させ、小文字ができた。

英語の文字と日本語の文字を比較

- ・英語は、大文字と小文字を合わせてもたった 52 文字です。日本語は平仮名、片仮名、漢字・・・と、中学生では、英語の何倍もの文字を覚えています。「英語って結構簡単かも」と思わせましょう。

○アルファベットを正しく言えて、書けるようにする。



アルファベットの順番を覚えて、正しく言える

- ・ ABCDE … ([エイ][ビー][スィー][ディー][イー]…)の順番を「ABC ソング」などを使って覚えさせます。覚えることで、辞書を早く引くことができるということを辞書引きの指導の際に体感させることができます。
- ・ アルファベットの読み方を間違えて覚えている生徒もいるので、正しく言えるようにしましょう。(A、C、F、H、L、M、N、O、R、V、Zなど)

アルファベットの文字の形を認識する

- ・ カルタ取りなどの活動から、アルファベットの文字の形を認識させましょう。
- ・ 生徒が間違いやすい小文字の b と d、p と q、m と n 認識させるために、小学校外国語活動で行っているような活動（小学校ではアルファベットに興味をもったり、認識したりすることが目的）を使って定着させることができます。

アルファベットを正しく書ける

- ・ 大文字を認識させてから大文字を書く練習、そして次は小文字…という順に進めると負担が少ないです。

■アルファベットの発音と綴りの関係について

○アルファベットには名前と音がある。

- ・ アルファベットの名前を知っていても、単語は読むことができません。アルファベットにはそれぞれ音があり、単語を読むためには、音と音の足し算をするという方法を教えましょう。

b+u+s= [ブ+ア+ス] =bus [バス]



○そのほかの文字と音のルールについて教えて、読める語彙数を増やしていく。

- ・ 母音+子音+e、二文字子音 (sh、ch、ph など)、二文字母音 (ou、au、oo など) を少しずつ教えていきましょう。

cut [カッt] → cute [キューt]

ou [アu] cloud [クラuド]



- ・ 「カルタ」などを使って、何度も繰り返し練習させましょう。
- ・ 生徒にルールを気付かせるように仕組みましょう。
- ・ 何度も繰り返していくことで、定着させましょう。

■単語を正しく書けるようにする

○教科書本文の語句をオーラル・イントロダクションで導入する。

- ・ 写真、実物、イラスト、ジェスチャーを用いて、生徒が単語の意味を推測したり理解できるようにしましょう。

○正しく読めるようにする。読めない単語は書けない。

- ・ フラッシュカードを用いて、即座にその単語が読めるようにしましょう。カードをすばやくフラッシュさせるように、何度も生徒に示し、つづりも印象づけます。つづりを finger writing させるのも効果的です。

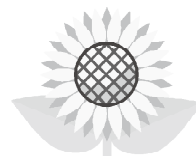
○単語の覚え方

- ・発音しながら書かせましょう。単語の意味は文によって異なる場合があるので、単語だけを覚えるよりは、その単語が含まれた文を書いて覚えることが大切です。「高知県英語ライティングシート」、「高知県中学生必須英語語彙リスト」を利用するといいでしょう。
- ・単語を覚えているかどうかの確認の仕方を生徒に教えましょう。(自分でテストをする。間違えた単語を書いて覚える。次に間違えた単語だけ、再びテストをする。)
- ・インプット活動(2人一組で、片方が日本語を言ったら、もう1人はすぐにそれを英語にしていく。)を行うのもいい方法です。ワークシートの工夫で、単語から文にアレンジできますし、同じワークシートを繰り返し使うことで定着につながります。また、家庭学習につなげることもできます。
- ・単元が終了したときなどに、既習の単語を用いた単語ビンゴを行うことも単語を書いたり、単語を聞いて読んだりすることができるので、単語を覚えることにつながります。

■語彙に何度も触れさせる場面を設定する

- ・Teacher Talk の中や、ペア・ワークやグループ・ワーク、ワークシートの中で聞いたり、使ったり、また学年に応じた読み物教材を使うことにより、繰り返し使用する場面を設定しましょう。
- ・生徒が関心をもつような話やクイズを行うことで、語彙に興味をもつことにつながります。

walk には、「あるく」と書いている
take は「持って行く、連れて行く」
「ひとで」は starfish、「なまこ」は sea cucumber、
「ひまわり」は sunflower、
「なまず」は catfish、「ひらめ・かれい」は flatfish など



- ・インプット活動用のプリントや教科書などを何度も繰り返し、語彙に何度も触れさせ、語彙と出会うことが大切です。インプットをしたら、アウトプットの場面(タスク、ライティング、スピーチ等)を設定しましょう。授業で知った語彙を使ってアウトプットできたときに、生徒は喜びを感じると同時に習熟していきます。

授業で、すべての語彙を教えることはできません。子どもたちが自発的に語彙の世界を広げ、生涯学ぶことができるよう、語彙の面白さを伝えたいものです。学習指導要領でも、「辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること」と記されています。ここでは、英和辞書指導の例を示します。

ステージ1：語彙を見つけることが苦痛にならない練習



早引き競争 基本編

	生徒の活動	教師の支援
①	<ul style="list-style-type: none"> 英和辞書、色つきのペン、記録表（例：ワークシート1）を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる複数の語彙を板書する。 前後で派生語の確認ができるようなものなど、あえて辞書で調べる意味をもたせる。
②	<ul style="list-style-type: none"> ページの見当をつけ、準備する。（ready のポーズ） 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる語彙を特定する。 制限時間を告げる。 見つけたら前後を読むように指示しておく。
③	<ul style="list-style-type: none"> 見つけたら手を上げ、教師に知らせる。 手を挙げた時のカウントを記録表に付ける。調べ終わった生徒は、特に驚いた部分にアンダーラインを入れたり、一言感想を書いたりしながら読む。 30を過ぎて、発見した場合は、overと書く。 	<ul style="list-style-type: none"> Ready go の掛け声とともに、英語で1から30までカウントする。 辞書を忘れていた生徒がいたら、英語でカウントをする役割を与えることで、参加意識をもたせる。 アンダーラインや感想など記入させることで辞書忘れをなくすことにもつながる。 その語彙の見どころを伝え、次の語彙を指定する。

1年間の中で、同じ語彙を複数回調べるよう仕組む。アンダーラインなどをつけているため、2回目以降はすぐに目がいくこともあり、タイムは上がる。



早引き競争 上級編

- 調べる語彙を板書せず、発音だけで示して、Ready Go! 例えば、RとL、BとVの指導をした後などに効果的です。
- 慣れてきたら、一度で該当ページを引き当てることに挑戦させる。

辞書は、発見、気づきを促すツールとして優れています。語彙も単なる文字の羅列ではなく、意味ある並びになっていることを生徒自身に発見させましょう。

ステージ2：気付き！発見！で類推力、記憶力、関心UP！



気付きを促す英和辞書 ～接頭辞編～

	生徒の活動	教師の支援
①	<ul style="list-style-type: none"> 指示された語彙を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> Inter-、com-、un-、uni-など、生徒がイメージしやすいような語彙を一つ選び、早引き競争をさせる。 見つけたらすぐに辞書を閉じないように事前に指示する。
②	<ul style="list-style-type: none"> 似ていると思われる語彙の意味に着目して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 前後にある、綴りの似た語彙を読ませる。
③	<ul style="list-style-type: none"> 共通した綴りの共通したイメージを、自由に表現する。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> 共通した綴りをもつ語彙に共通しているイメージを、ノートやワークシートに書かせる。 机間指導をして、わかりやすい複数の語彙を指差し、発想を促す。 気付いたことを書く際には、ことばを整える必要はなく、「〇〇な感じ」、「～のようなものに多い気がする」といった表現でよい。もしくはイラストにしても良い。
③	<ul style="list-style-type: none"> ペアでお互いに感じたものを交換する。 (例： ワークシート2) 	<ul style="list-style-type: none"> イメージなので、基本的に不正解はないことを伝え、意見交換を促す。何人かの生徒の表現を使って接頭辞の意味を全体で共有する。 生徒の個性が表現方法にも見えるので、認め、伸ばすコメントを心がける。 語彙の意味を自分のことばで定義することの楽しさを感じさせる。辞書が全てではなく、言葉の世界の深さ、学問の深さを感じさせるよう意識する。
④	<ul style="list-style-type: none"> 既習の語彙で、接頭辞、接尾辞を含んでいるものはないか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 接頭辞、接尾辞によって成り立つ語彙を紹介することで、アルファベットの並びにも意味があることを感じさせる。

tele-などは、文明の発達とともに、人間によって語彙が形成されたことをはっきりと感じ取れる接頭辞ですね。



気付きを促す英和辞書 ～Core meaning 編～

	生徒の活動	教師の支援
①	<ul style="list-style-type: none"> ・板書された語彙について調べる。 ・よく使う語彙なので、調べたら付箋を付けるなどしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の基本動詞や前置詞を一つ選ぶ。調べる前に、その語彙について知っている限りのことを出させ、早引き競争。例えば、have、make、take、run など。 ・辞書で調べた際に見幅広い意味や用法があるように見える語彙を選ぶと効果的。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた語彙の意味を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた後は、その語彙について、どれだけの情報量があるかを確認させる。 ・電子辞書に比べ、「自分は、あとどれくらい知るべきなのか」わかりやすいのが、紙の辞書の利点である。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・共通したイメージを、自由に表現する。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・例文に目を通させ、その語彙の共通したイメージをノートやワークシートに自由に書かせる。 ・気付いたことを書く際には、ことばを整える必要はなく、「〇〇な感じ」、「～のようなものに多い気がする」といった表現でよい。もしくはイラストにしても良い。 ・正解・不正解にこだわらなくてもよい。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでお互いに感じたものを交換する。 (例： ワークシート 3) ・イメージのきっかけとなった例文を紹介し合う。 <div data-bbox="215 1534 574 1848" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>例文が多いほどイメージがわかりやすい。ペアで交換するには、生徒の辞書は統一でない方が面白い。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージなので不正解はないことを伝え、意見交換を促す。何人かの生徒の表現を使ってコアのイメージを全体で共有する。 ・語彙の意味を自分のことばで定義することの楽しさを感じさせる。 ・辞書が全てではなく、言葉の世界の深さ、学問の深さを感じさせるよう意識する。
⑤		<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで“Core Meaning”を検索すると一つの解として示せる書籍やDVD などがあるので見ておくと、解説が深まる。



気付きを促す英和辞書 ～音象徴編～

ことばが発達していなかった太古の昔、人はどうやってコミュニケーションをしていたのでしょうか。英語、日本語、フランス語、中国語・・・どの言語にも共通する音のイメージがあるのではないのでしょうか。

一つ一つの文字の発音の仕方と、綴りと、意味を関連付けて考える活動です。

音象徴とは、文字通り、音が象徴するものを考える学問分野です。学者の中でも、この考え方を支持する人、しない人様々です。正解のないのが学問の楽しいところ。生徒と一緒に考えてみませんか？

	生徒の活動	教師の支援
①	<ul style="list-style-type: none"> 指定された文字で始まるページを開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇（例：fl-）で始まるページならどこでもよい、という指示で辞書を開かせる。st-、scr-、b、s-などもわかりやすい。
②	<ul style="list-style-type: none"> 共通したイメージを、自由に表現する。（個人） 	<ul style="list-style-type: none"> そのページの語彙の意味をみて、共通しているイメージをノートやワークシートに書かせる。または動作で表現させる。 語彙の意味を自分のことばで定義することの楽しさを感じさせる。世界の音声学研究者の間でも意見が分かれていることを伝え、言葉の世界の深さを感じさせるよう意識する。
③	<ul style="list-style-type: none"> ペアでお互いに感じたものを交換する。 イメージのきっかけとなった語彙を紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアでイメージを共有させる。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> 教師の口元や音に着目しながら一緒に発音する。その動きと意味に共通イメージはないか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音との関連を考えさせるため、口や舌、喉の動き等に注目させながら一緒に発音を試みる。（例：fl-） fの発音の仕方、lの発音の仕方を確認する。この二つの音のコンビネーションで始まる単語が、ふわふわと流れるような動きになること、lが「流音」と呼ばれること、「流」という字が「る」「りゅう」とラ行の音をもつこと、これらが、果たして偶然かどうかを考える時間をもつ。

6 小中連携について



(1) 小・中学校の目標について

小学校外国語活動の目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

小学校外国語活動では、中学校段階での外国語教育の単なる前倒しではなく、コミュニケーション能力の素地を養うことを目指しています。具体的には、児童が「コミュニケーションを図る楽しさを体験する」など、外国語（英語）を聞いたり話したりするコミュニケーションの体験を活動の主体として、児童のコミュニケーション能力の素地を育む内容になっています。

児童のコミュニケーション能力の素地を育むために

指導内容

ポイント： 外国語を通じて、ことばや文化の豊かさや大切さに気付き、人と関わる楽しさ、伝え合う喜びを体験する。

- ☆ 外国語を用いて、友だちや先生等と互いの気持ちや考えを伝え合い交流する内容
- ☆ 外国語の音声やリズム、基本的な表現に慣れ親しむ内容
- ☆ 友だちの気持ちや考え、自国や他国の言語や文化に気付く内容

How are you?

指導方法

ポイント： 外国語の語彙や文構造の定着を目指すのではなく、外国語を伝え合うツールとして体験できる工夫をする。

- ☆ 「相手意識と情意面（関心・意欲・態度）」を育む視点をもつ。
- ☆ 外国語を通じて、相手意識をもってコミュニケーションを図るよう支援するとともに、児童の頑張りを認め、積極的に励ます。
- ☆ 「文法や発音の正しさ」を求めない。
- ☆ 文法的な正確さよりも、失敗を恐れず積極的に外国語で交流しようとする態度の育成を重視する。
- ☆ 教えこまない。
- ☆ 教師が全て説明するのではなく、活動を通じて児童に気付かせたり、慣れ親しませる。

中学校外国語の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。



小学校で養われた児童の「コミュニケーション能力の素地」を、中学校で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能の力として総合的に育成する。

☆小学校段階で「聞くこと」「話すこと」という音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることから、中学校では「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」これら4つの技能を統合的に使用することによって、バランスよく育成を図ることの必要性が強調されました。



ここで、小学校外国語活動と中学校外国語科の目標を比較してみましょう。

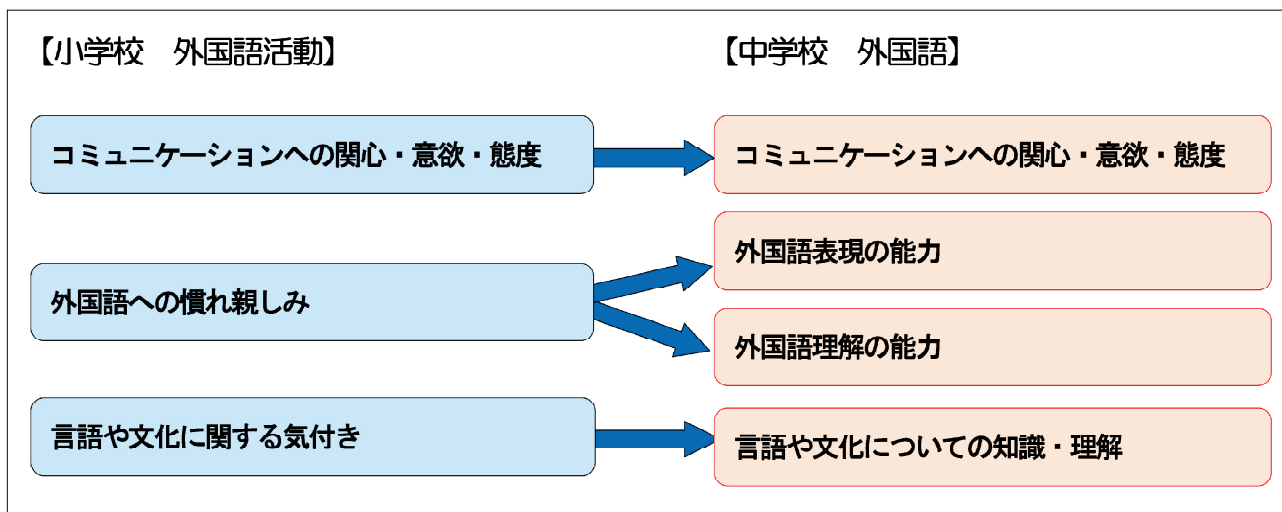
小学校外国語活動	中学校外国語科
外国語を通じて、 ② 言語や文化について <u>体験的に</u> 理解を深め、 ② 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、 ③ <u>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら</u> 、 コミュニケーション能力の <u>素地</u> を養う。	外国語を通じて、 ① 言語や文化に対する理解を深め、 ② 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、 ③ <u>聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの</u> コミュニケーション能力の <u>基礎</u> を養う。



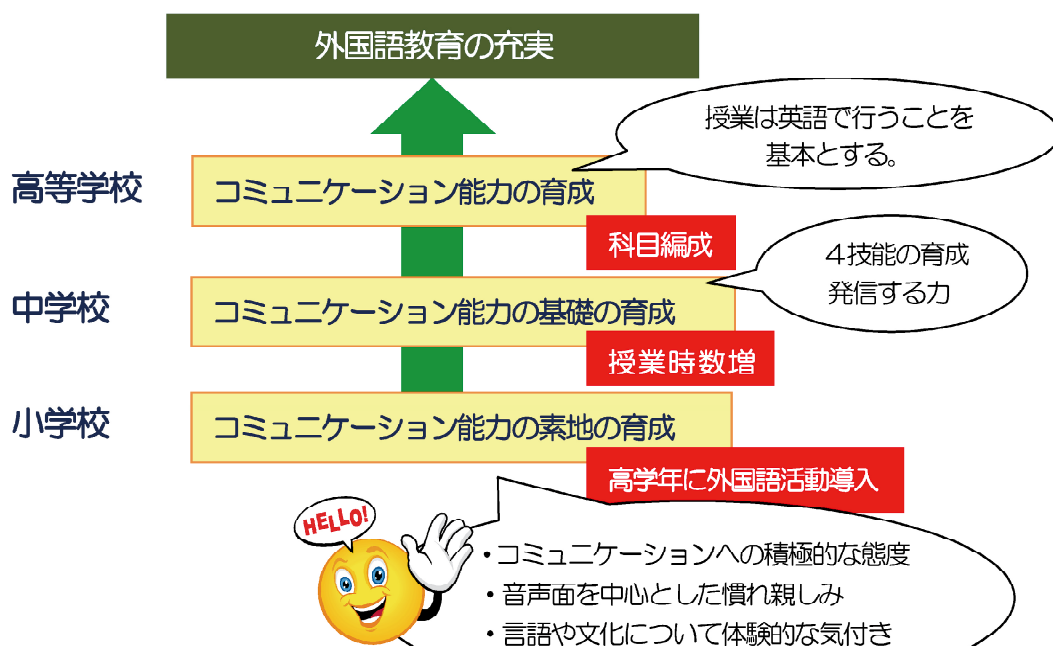
共通点	目標の3本柱 → 小学校と中学校の目標の一貫性	
	小学校	中学校
相違点	3つの柱（上記の①②③）を総合的に絡めながら	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を総合的に育成
	スキル（技能）向上のみを目的としない	スキル面の向上を図りながら（英語運用能力の向上が目標）
	「コミュニケーション能力の素地を養う」	「コミュニケーション能力の基礎を養う」

(2) 評価の観点及びその趣旨について

例示を参考に、設置者が観点を設定します。



小学校での「慣れ親しみ」は、学校では「能力」となり、細分化されます。この観点到大きな違いがみられます。



外国語活動の趣旨を踏まえた授業づくりが重要

小学校外国語活動では、外国語の音声や表現に慣れ親しむものの、スキルの習得・定着を求めています。(単元の中では、主に扱う語彙や表現に十分に慣れ親しませる)

一方、中学校では、コミュニケーション能力の基礎、すなわち、聞いたり話したり読んだり書いたりするスキルの習得・定着が求められます。

そこで、小学校外国語活動で慣れ親しんだ外国語の音声や表現をうまく活用しながら(使用表現や言語材料を活用)、中学校では**正確さ・適切さ**の指導を行うとともに、読んだり書いたりする4技能に係る統合的な言語活動を通して、より豊かなコミュニケーションを目指していきます。

(3) 小中連携の具体について

ここからは、小中連携の具体について考えてみましょう。



小中連携は何のために？

「小学校でやったことが、中学校でも役に立つんだ」という子どもの実感が大切！

小学校外国語活動での成果を中学校の外国語科に生かす、すなわち、子どもたちが「小学校でやったことが中学校でも役に立つ」と実感できるようにすることが大切であり、そのために



小学校外国語活動と中学校での外国語学習をつなぐ（連携する）必要があります。

何から始める？

Step1 「情報交換」

小学校・中学校の互いの取り組みを知り合うことから始めます。

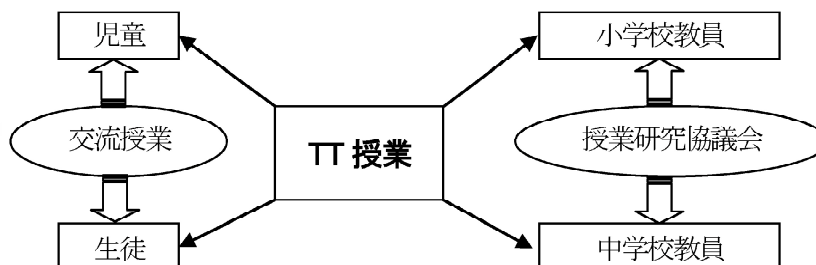
例えば、中学校区の小学校教員と中学校外国語科教員とが外国語活動と中学校外国語科の取りについての情報交換を行います。（・児童生徒の状況 ・学習内容 ・教材 ・指導アイデア）

Step2 「交流」

「小学校教員と生徒」「中学校教員と児童」「小・中の教員同士」「児童と生徒」の4つの交流の中から、学校や子どもたちの実態に応じて取り組みやすいものから始めます。

最も効果的なのは「児童と生徒」の交流です。その際は、必然的に小・中の教員の交流が必要となります。また、中学生には日頃の学習成果を披露する場となり、児童にとっては中学校英語への憧れをもつ機会にもなります。

小中連携とは、同じ「時」と「場」を共有して、作り出すものです。



Step3 カリキュラムの連携

小中連携の要素（目標の一貫性、学習内容の系統性、指導法の継続性）のうち、現段階で最も大切なのは「指導法の継続性」です。特に中1入門期の指導が重要になります。

小学校外国語活動で取り組んだ言語の使用場面や言語の働き（下記参照）を意識した「聞くこと」「話すこと」の言語活動を取り入れながら、聞いたり話したりする力（スキルの習得・定着）を育成していきます。併せて「読むこと」「書くこと」の4技能を統合的に活用した言語活動への取り組みを通して、コミュニケーション能力の基礎を養います。

- ◎ 言語の使用場面・・・あいさつ、自己紹介、買い物、食事、道案内
- ◎ 言語の働き・・・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

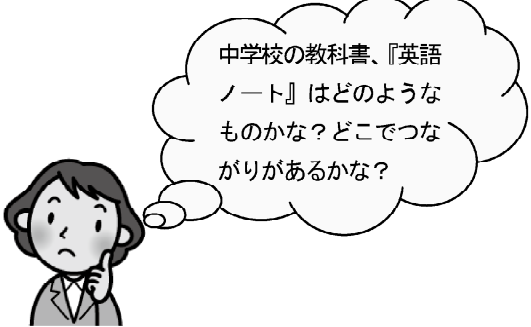
(4) 小中連携の進め方について

では、どのように小中連携を進めていけばよいのでしょうか？ 例えばK市では・・・

外国語（活動）担当者協議会を組織
 (各小学校の代表者と各中学校の英語科教員 1 名が協議会に参加)
 (K 市教育研究所が事務局)

H22 年度はこんなことを計画

- 5月 ▶ 年間計画の確認 研究授業実施校の決定
小・中学校の情報交換 (中学校1年生の外国語科の様子など小・中学校の情報交換)
- 6月 ▶ 中学校での外国語科の研究授業と研究協議
(中学校区に分かれて、小・中学校の教員で研究協議し、全体で共有)
- 7月 ▶ ALT と小学校教員との実技研修
(クラスルームイングリッシュの研修、『英語ノート』に即した効果的な活動・チャンツ・歌・ゲーム等の効果的な指導についての実技研修)
小・小の情報交換
- 8月 ▶ 合同カリキュラムづくり
(中学校区に分かれて、教材研究,教材づくり)
小・中学校の情報交換
- 10月 ▶ 小学校での外国語活動の研究授業と研究協議
(中学校区に分かれて、小・中学校の教員で研究協議し、全体で共有)
- 2月 ▶ 1年間の活動の総括
平成23年度へ向けての協議



* K市版外国語活動指導資料も活用

(ALT 用)

Elementary Foreign Languages Grade 6 Instruction Guidelines		
	Grade 6 Lesson 5 Asking and telling directions	Go a l
Time	1	
Goal	To become familiar with naming buildings and shops	To become familiar with
Main activities	Greetings (2) Quiz: What's this? (10) Obayiki Game (10) Pointing Game (10) Jūbi nakoshi rubi sashi Game (10) Review (3)	Greetings (2) Simon Says (10) Give the teacher directions Arrive-at-the-right-place Where's the Station? Cf Review (3)

(学級担任用)

小学校外国語活動 第6学年指導計画 (英語ノート2 活用)		
	6年生 Lesson 5 道案内をしよう	目 標 ・建物名 ・積極的 ・方向や ・言葉を
時間	1	
目標	建物や店の言い方に慣れ親しむ。	方向や動きを指示するま
主な活動	あいさつ (2) クイズ What's this? (10) おはじきゲーム (10) 指差しゲーム (10) 指差し指差しゲーム (10)	あいさつ (2) サイモン・セズゲーム (先生に道案内) (10) 到着場所リスニング (10) Where is the station? (10)

内容の取扱いについて（小学校）

言語活動の取扱いについて（中学校）

【コミュニケーションの場面の例】	【言語の使用場面の例】
<p>(ア) 特有の表現がよく使われる場面</p> <p>・あいさつ</p> <p>A: Hello. How are you? B: I'm fine, thank you.</p> <p>A: Nice to meet you. B: Nice to meet you, too.</p> <p>・自己紹介</p> <p>Hi, my name is Taro. I like sushi. I don't like tennis.</p> <p>・買い物</p> <p>A: Do you have blue shoes? B: Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>A: What do you want? B: Banana, please.</p> <p>・食事</p> <p>A: What would you like? B: Soup, please.</p> <p>・道案内</p> <p>A: Where is the post office? B: Go straight. Turn left / right. など。</p>	<p>a 特有の表現がよく使われる場面</p> <p>・あいさつ</p> <p>A: Good morning. How are you? B: Fine, thank you. How about you?</p> <p>A: How are you doing? B: I'm all right, and you?</p> <p>・自己紹介</p> <p>Hi, my name is Sato Kimiko. I'm from Japan. I like volleyball very much.</p> <p>It's nice to meet you. My name is Shotaro. Please call me Sho.</p> <p>Hi, my name is Kentaro. I'm a junior high student from Japan.</p> <p>・買い物</p> <p>A: May I help you? B: Yes, I'm looking for a white T-shirt.</p> <p>A: Can I have two hot dogs? B: Thank you. Five dollars, please.</p> <p>・食事</p> <p>A: What would you like to drink? B: Orange juice, please.</p> <p>A: How do you like your steak? B: I like it rare, please.</p> <p>A: This meal was delicious. B: Thank you. I'm glad you liked it.</p> <p>・道案内</p> <p>A: Excuse me. Is there a post office around here? B: Let's see. Walk along this street and turn right at the next corner. You'll find it on your left. A: Excuse me. Is there a police station near here? B: I'm sorry, I don't know. I am a visitor here.</p>

(イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面

・家庭での生活

A: What time do you get up?
B: I get up at 6:00.

・学校での学習や活動

On Monday, I study Japanese, math and science.

・旅行

A: Which bus goes to the city museum?
B: No.5. You should get off at Kita-koen-mae.

A: Let's have lunch now.
B: All right. I know a good restaurant near here.

A: Can I help you?
B: I'd like a ticket to Sendai, please.

・電話での応答

A: Hello, this is Kenji. May I speak to Yoshio?
B: I'm sorry, but he's out now. May I take a message?

A: Hello. This is Hiroshi. May I talk to Tatsuya?
B: Sure. Just a minute, please.

A: Hello. This is Hana. Can I speak to Mary?
B: I'm sorry, but she can't come to the phone.
Can I take a message? など。

b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面

・家庭での生活

A: Ken, can you help me?
B: Sure. I'll be right there.

A: Ken, will you help me?
B: I can't. I'm doing my homework.

・学校での学習や活動

A: I can't hear you. Will you say that again?
B: O.K.. I said...

A: Do you have any questions?
B: Yes. I don't understand the meaning of...

A: Mr. Tanaka, where are we going on our school trip this year?
B: We're going to Kyushu.

A: Ms. Suzuki, what time does school end today?
B: Today we have parent-teacher meetings, so school is over after lunch.

<p>・地域の行事 Let's clean the beach.</p> <p>・子どもの遊び Rock, scissors, paper. One ,two, three. I can play <i>kendama</i>. など。</p>	<p>・地域の行事 A: Look! The <i>omikoshi</i> is coming . B:Wow,many people are carrying it on their shoulders. Can I join them?</p> <p>A: Look at those fire works up there. B: Oh, they're so bright and beautiful. A: See those people in <i>yukata</i> dancing in a circle? A: That looks like fun. Can I dance, too?など。</p>
<p style="text-align: center;">【コミュニケーションの働きの例】</p> <hr/> <p>(ア) 相手との関係を円滑にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼を言う Thank you. ・褒める That's right. Good. ・丁寧表現 A: What would you like? B: I'd like pizza, please. など。 	<p style="text-align: center;">【言語の働きの例】</p> <p>*小学校と高等学校における分類と対応関係をわかりやすくするために統一を図る。</p> <p>a コミュニケーションを円滑にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼び掛ける Hello, Mike. Excuse me. Hey, Sally. May I ask you a favor? ・相づちをうつ A: Our math teacher is very kind. B: Yes. ・聞き直す A: Sorry? B: I said June 3rd. ・聞き直す A: Excuse me? B: I said Suzuki. S-U-Z-U-K-I. ・聞き直す A: Pardon me? B: I'm sorry. I said, " Help yourself, please." ・繰り返す A: I went to Hiroshima last weekend. B: Oh, you went to Hiroshima. Me, too. A: I studied for the math test yesterday. B: You studied for the math test, too? など。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>新たに追加した働き。 言葉のやりとりを円滑にする手立てを含む。</p> </div>

(イ) 気持ちを伝える

A: How are you?

B: I'm fine/ happy.

など。

(ウ) 事実を伝える

A: What's this?

B: It's a rabbit. など。

b 気持ちを伝える

・礼を言う

Thanks.

Thank you very much.

Thanks a lot.

・苦情を言う

Stop that noise.

It's too expensive.

Can you be quiet?

・褒める

Good job.

Wonderful!

That a nice dress!

・謝るなど

I'm sorry.

Please forgive me. など。

c 情報を伝える

・説明する

A: You are going home early today.

B: Yes, because my dog is waiting.

I'll take him for a walk.

A: Will you tell me how to send e-mail?

B: Sure. First... Second,... And then...

A: Who is that man?

B: He is Bob. He is a rock star. He is very rich and famous. His house has ten bedrooms.

・報告する

A: Mr. Suzuki, we're ready to start.

B: O.K. Let's go.

A: Ms. Brown, all the students are here.

B: Fine. Let's start class.

A: Ms. Saito, the video recorder is ready.

B: Great! I'll begin my speech then.

・発表する

I'll tell you about my dream. My dream is...

Let me tell you about our school. Our school began in ...

I will show you some pictures from my hometown.

My hometown is...

(エ) 考えや意図を伝える

- ・発表する

I like soccer.

I want to be a soccer player. など。

- ・描写するなど

My pet is a cute white cat. He's still young and small.

My mobile phone is a lightweight black phone. It's very new and small.

My teacher is a young tall man. He's very nice and energetic. など。

d 考えや意図を伝える

- ・申し出る

A: Shall I take you to the station?

B: Yes, please. I'd like to catch the 9 o'clock train.

A: Would you like me to help you?

B: Oh, please. These books are too heavy for me to carry.

A: Can I help you?

B: Thank you. Where is Takamatsu Station?

- ・約束する

I promise to finish the job by tomorrow.

I won't be late. I promise.

- ・意見を言う

I think you are right.

I'm afraid you are wrong.

I suppose it is important.

- ・賛成する

I think so, too. That's a good idea.

I agree with you.

Me, too. This is a great idea.

- ・反対する

I don't think so.

I don't agree with you.

I don't really think it's a good idea.

- ・承諾する

A: Mom, I've just finished my homework.

Can I go out now?

B: Of course you can.

A: Shall we go to the baseball park next Sunday?

B: O.K. What time?

(オ) 相手の行動を促す

- ・ 道案内をする

Go straight. Turn right. など。

- ・ 断る

A: How about going to the movie this afternoon?

B: I'm sorry I can't. I have to visit my uncle.

A: Can you come over this weekend and play some games?

B: I'd really love to, but I'm busy.

A: Would you like something to eat?

B: No, thank you. I'm full. など。

e 相手の行動を促す

- ・ 質問する

A: Do you have a computer?

B: No. But my brother does.

A: Can you read Chinese?

B: No, I can't. But my grandfather can.

A: Do you sell newspapers?

B: No, but the store next door does.

- ・ 依頼する

A: Will you help me?

B: Sure. What do you want me to do?

A: Can you help me with my math homework?

B: Of course. Show me your problems.

A: Can I use this dictionary?

B: Of course. It's very useful.

- ・ 招待する

A: We are going to have a party tomorrow. Can you join us?

B: Of course.

A: Please come to my sister's birthday party.

B: Thank you. When is it?

A: Why don't you have dinner with us this evening?

B: Thank you! I will. など。

7 中高連携について

小中連携だけでなく、中学校には高等学校へもバトンを渡す役割があります。生徒にとって、中学校卒業や高校入試だけがゴールではありません。ここでは、高等学校へのスムーズな接続について考えます。

小中高の学習指導要領で、目標、言語材料、具体的な言語活動について理解し、それぞれの教科書を分析することから始めましょう。

近くの学校で、授業参観やテストの交換をするなど情報交流をしましょう。

生徒にとって、中学から高校への接続が、負担にならないよう授業の工夫をしましょう。

中学校で「コミュニケーション能力の基礎」をつけ、高等学校では「コミュニケーション能力」そのものを育てる。基礎って何が、どこまでできればいいのかな。

学び直しの科目「コミュニケーション英語基礎」ってどんな教科書かな？



読む英文量や語彙数、授業展開のスピード・・・、ずいぶん生徒たちには負担がかかっているかも？高校に向けて徐々に英語使わなくっちゃ！

「授業を英語で行う」って、生徒がどれだけ英語を使うか？だよな。

平成23年度 高知県公立高等学校入学者選抜より

2 Megumiは、昨年イギリスでのホームステイでお世話になったHelenに、日本から誕生日カードを送ることにしました。次のカードは、Megumiが書いたものです。このカードを見て、下の(1)・(2)の問いに答えよ。

Dear Helen,

Happy Birthday!

It has been a year since I stayed with you. I remember that I had a very good time on your birthday. It was a wonderful birthday party. We sang songs, danced together and ate cake. A On my birthday, my family had a big party for me. My father gave me a new bike.

B I hope you can enjoy staying with us. See you then.

Love,
Megumi



日本語をそのまま英訳するのではなく、場面を想定して適切な英語を考えるような質問の仕方を、授業やテストにおいても工夫しましょう。

(1) A に、今年の誕生日の予定をたずねる英語1文を書け。

(2) B に、

(1) A に、今年の誕生日の予定をたずねる英語1文を書け。

(2) B に、今年の夏にこちらに遊びに来ませんかと誘う英語1文を書け。

高等学校への接続のために

～高知県公立高等学校入学者選抜等から見えること～



* 書くこと

- ◆言いたい、聞いてほしいという思いを大事に育てながら書く活動を取り入れましょう。読んだり、聞いたりした英文を活用して書く活動につなげることも大切です。
- ◆まとまりのある文で、表現することに慣れるよう、『英語ライティングシート』のテーマ作文編等を活用してください。
- ◆書き写したり、自学ノートに練習したりするときにも、脳を活性化させる指導を心がけ、段階を踏んで書くことに慣れるよう指導をしましょう。
(例) 1文字ずつ見ては書く → 1単語ずつ覚えて書く → 1文ずつ覚えて書く
など
- ◆転記ミスも目立ちますので、日頃から見直しをする習慣をつけることが大切です。

* 読むこと

- ◆まとまった量の英文を読み、的確に要点を捉えるようになるには、練習が必要です。
- ◆徐々に読む量を増やしたり、小さなポイント数に慣れさせたり、WPMを測ってスピードを意識させたりすることも大切です。

* 意図の読み取り

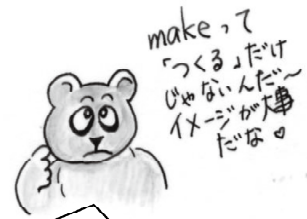
- ◆ことばは、場面の中でこそ生きてきます。日ごろから、機械的なことばのやりとりにならないよう、場面を仕組み、ことばの意図を感じられる言語活動を設定しましょう。
(例1) “Thank you.”を「ありがとう」と訳せるだけでなく、「感謝の気持ちを伝えたい時」等の場面から“Thank you.”ということばを導き出せるようになりたいものですね。
(例2) “Do you have a pen?”の意図は場面によって異なり、答えも“Yes, I do.”や“I here you are.”など様々に変わるはずですね。
- ◆場面を想定した質問の仕方を、授業やテストにおいて工夫しましょう。

* 語彙力

- ◆中学校から紙の辞書に少しずつ慣れさせたいものです。特に基本動詞は、一語一義的な捉えにならないようにしましょう。
- ◆語彙数の増加に伴い、中高の6年間で、未知語を文の前後関係や語形成等から推測できる力、辞書での確に検索できる力も養っていく必要があります。教科書巻末のワードリストから電子辞書に一足飛びに変更することはあまり得策とは言えません。

マトリックマのひとりごと

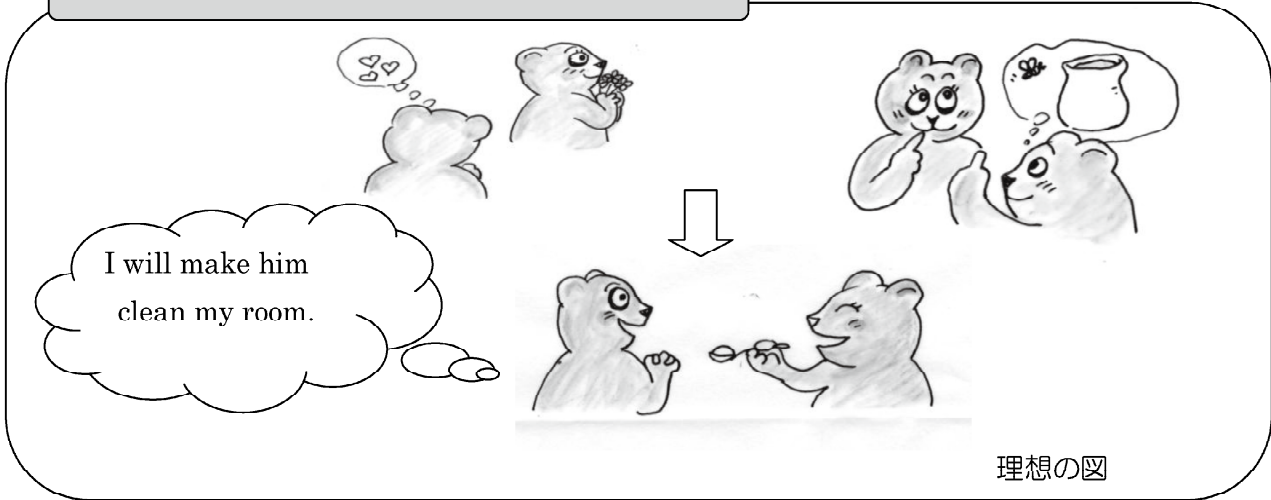
“make” の core meaning?!



Make ってどんな時につかうのかなあ？make a dress も make a plan も make a decision もなんか、理想とする完成形を目指して作り上げていく感じ??

make friends → 気が合いそう♡ → 声掛けてみようかな → 蜂蜜とりにいこうよ

「友達になる」という理想の姿を目指して努力中です



make – up

世界一美しい私♡を目指して、パック → 保湿クリーム → それからそれから・・・

「世界一美しい私」という理想の姿を目指して奮闘中



毎年秋に開催される「高知県英語ディベート大会」は、平成 23 年度で 11 年目。高等学校の学習指導要領の解説にあるように、ディベートは、4 技能を統合的に養うものです。回を重ねるごとに質の向上が見られます。授業や学校行事等で英語ディベートに取り組む学校も増えました。生徒と一緒に是非会場へお越しください。養われるのは英語力だけではないことがわかります。